

2017. 4. 25

# 新「つま恋」27日全面開業

# 3年間で100億円投資

## 社長会見 自然体感型目指す

掛川市満水の「つま恋」の新たな運営会社「ホテルマネージメント インターナショナル」（HMIホテルグループ、東京都中央区）の比良竜虎社長が二十四日、二十七日の全面開業を前に記者会見した。

「従来の音楽とスポーツ施設に加えて、自然を体感できるグリーンリゾートに発展させる」と述べ、三年間で百億円を投じ、ヤマハの運営当時より三十五万人多い年間百万人が訪れる施設にする方針を示した。（赤野嘉春、写真も）＝関連⑤面



記者会見で経営方針を話すHMIの比良竜虎社長＝24日、掛川市満水の「つま恋リゾート彩の郷」で

新名称は「つま恋リゾート彩の郷」。幅広い利用客を見込み、入園料千円を廃止する。ホテルの宿泊料金も平均15%値下げして稼働率をアップさせる。音楽やレクリエーション、スポーツの施設は全て継承し、順次リニューアルを進める。四百四十畝の敷地には、日

本庭園をはじめ、世界各国の庭園を三十億円かけて整備する。夏場の人気施設ウォーターパークや冬のサウンドイルミネーション、スポーツ施設などを四十五億円で改修。ホテル二棟の改修に二十五億円を投じる。

比良氏は「外国との音楽交流を深める場をここに作りたい」と話し、アジアの富裕層を中心に積極的に取り込む考えを示した。従業員三百人の半数が継続雇用で、地元業者との取引も継続する。施設は一九七四年に「ヤ

マハリゾートつま恋」として二月に営業を終えた。HMIに譲渡が決まり、今月十日の聖地」と親しまれたが、二日に一部営業を始めて利用客の減少などで昨年十

2017. 4. 25

# 海外の宿泊客 照準



## 新「つま恋」27日全面開業

二十七日に全面開業する「つま恋リゾート彩の郷」（掛川市満水）で二十四日、内覧会が開かれた。ヤマハから運営を引き継いだHMIホテルグループのインド出身の比良竜虎社長は、経営難に陥った宿泊施設の再生をいくつも手掛けた経営手腕の持ち主だ。「つま恋は音楽をテーマにした、世界的モデルになる先進的な施設だ」と、海外の宿泊客に狙いを定めている。（瀬戸勝之、赤野嘉春） ①面参照

①つま恋の音楽イベントの歴史を紹介するコーナー  
②比良竜虎社長（中央）を囲んで鏡開きする川勝平太知事（同左）と森喜朗元首相（同右）らも掛川市満水の「つま恋リゾート彩の郷」で



第一弾の改装では、吉田拓郎さんや中島みゆきさんらのコンサートのシーンなど、「フォークソングの聖地」と称された「つま恋」の輝かしい音楽イベントの歴史を紹介するコーナーを二階ホテル連絡通路に新設した。

高級感を出すため全館を

じゅうたん敷きにして、レストランなどの飲食施設も衣替えした。他に「グリーンリゾート」のコンセプトに沿って、一部の施設の外壁は自然と調和する明るい茶系に変え、森をイメージする緑もあしらった。比良氏は日本国籍を取得して、在日インド商工協会理事長を務め、政財界に幅広い人脈を持つ。経営難のホテルやリゾート施設などを積極的に買収し、県内では浜松市の「ホテルクラウンパレス浜松」「グラランドホテル浜松」の再建で実績がある。

会見では、アジアからの

## 音楽「聖地」の歴史継承 ■ 全館じゅうたん 高級感

誘客強化を強調した。「音楽がテーマのつま恋の歴史を継承しつつ、発展させる。最新の音響設備を導入するなどし、インドやタイ、ベトナムなど外国との音楽交流の拠点にしたい」と抱負を述べた。学校など団体客の誘致に向けては「中国や韓国など国によって休みの期間が異なる。プールなどスポーツ施設を改装し、通年で人を呼び込みたい」と強調。大学生の交流促進に向け、日本企業で研修するインドの学生を招き、無料で宿泊させる計画も明らかにした。式典には千四百人が出席。来賓の川勝平太知事は「つま恋が日本とインドを結ぶ懸け橋となることを期待する」。元首相の森喜朗・日印協会代表理事会長も「立派に成長させるためにも地域が手を携えて支援してほしい」とあいさつした。インドで子会社が年間百四十万台の自動車を販売するスズキの鈴木修会長は「比良さんの手にかかると赤じゅうたん（赤字）から黒じゅうたん（黒字）になる。地域の皆さんに協力いただきたい」と、比良氏の経営手腕に期待した。

2017. 4. 25

# つま恋改修3年で100億円

## HMI社長 国内外へアピール

ホテルマネージメントインターナショナル（HMIホテルグループ）の比良竜虎社長は24日、掛川市の「つま恋リゾート彩の郷」オープン記念式典に先立って記者会見し、施設の改修に今後3年間で100億円を投じる方針を明らかにした。比良社長は「日本の美しい自然と文化を楽しめる国際水準のグリーンリゾートを目指したい」と抱負を語った。＝関連記事30面へ

（掛川支局・宮坂武司）

高級感を打ち出し、海外富裕層の積極的な取り込みを図る一方、従来千円だった入園料を無料にする。観光客

や近隣住民が立ち寄りやすくし、改修完了後の年間利用者を従来の65万人程度から100万人規模に増加させる

### ◇HMIが公表した「つま恋」改修の主な投資内容◇

- ▼造園や敷地内の森林整備（30億円）
- ▼ウォーターパークなどスポーツ施設の改修（45億円）
- ▼ホテル部分のリニューアル（25億円）



「つま恋」オープンに向け施設の将来像を語る比良竜虎社長＝24日午後、掛川市

比良社長は100億円を強化していくとの目標を掲げた。同施設は27日に全館オープンする。12日からプレオープン期間として、一部施設で宿泊や温泉のサービスを施行していた。宿泊予約はホームページで受け付けている。譲渡元のヤマハリゾートが運営していた時と比べ、平日割引を設けるなど料金を下げ、稼働率向上を図っていく。

2017. 4. 25

# つま恋再出発 1500人祝福

## 掛川市長「地元も協力」

「つま恋リゾート彩の郷」として再出発するつま恋の披露パーティーが24日、掛川市満水の同施設で開かれ、ヤマハから経営を引き継ぐホテルマネージメントインターナショナル(HMI)ホテルグループ)や譲渡を仲立ちした政財界の関係者ら約1500人が新たな船出を祝った。

式典には日印協会会長を務める森喜朗元首相やスズキの鈴木修会長、川勝平太知事らが出席し、玄関ロビーに設置した記念碑の除幕などを行った。

森氏は親交の深い比良竜虎社長がつま恋の継承に熱意を示していたのを知り、自らラグビーヤマハ発動機ジュビロの清宮克幸監督

を通じて働きかけたとのエピソードを語った。鈴木会長は比良社長が全国でホテル経営の再建を成功させている実績をたたえ、「きつと黒字になる」と話した。

とに謝辞が相次いだ。松井三郎掛川市長は「本当に感謝している。つま恋の名が世界に広がるよう、地元も協力したい」と述べた。市内の「中東遠総合医療センター」と連携した国際的な医療ツーリズムの展開を提案したほか、東京五輪やラグビーワールドカップのキャンプ誘致など、話題づくりを注ぐ考えを示した。



リニューアルの記念碑を除幕する出席者ら  
=24日午後、掛川市の「つま恋リゾート彩の郷」

2017. 4. 25

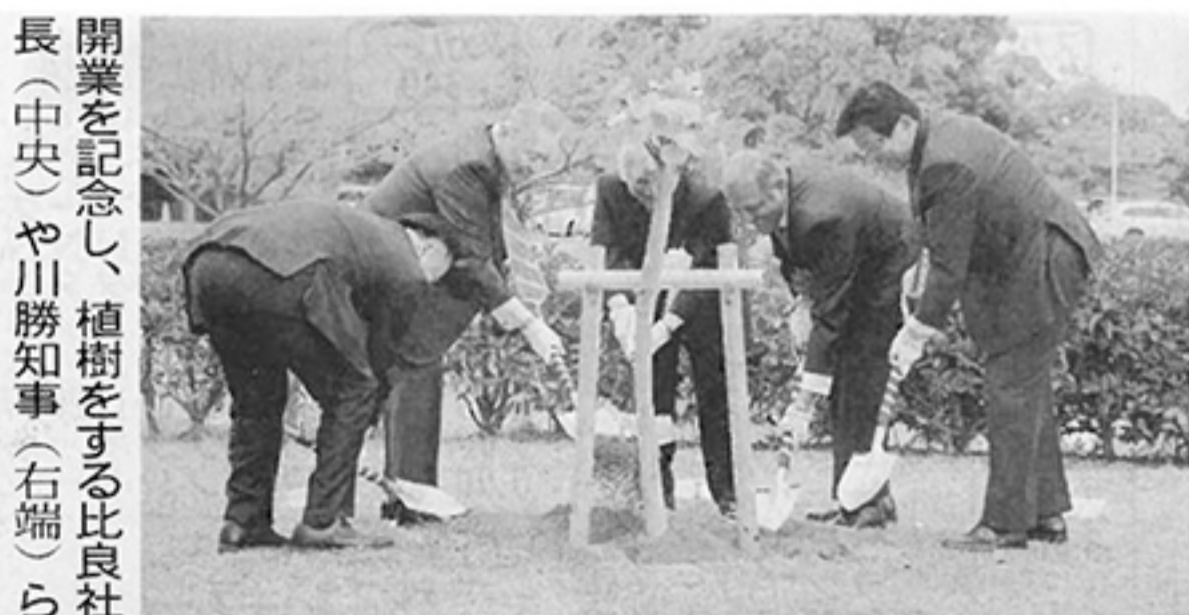
# つま恋 高級リゾートに

## 掛川で内覧会 日帰り温泉、ホテル新装

掛川市の複合リゾート施設「つま恋」を譲り受けたホテル運営会社「ホテルマネージメントインターナショナル」（HMI）本社・東京都）は24日、27日の本格的な営業再開を前に内覧会を開いた。施設名は「つま恋」の名称を残した「つま恋リゾート彩の郷」とし、「自然との触れ合いを楽しむ高級グリーンリゾート」を掲げた。改修費用として総額100億円を投資し、2年後には100万人の集客を目指すという。

内覧会に先立ち記者会見したHMIの比良竜虎社長は、「つま恋は音楽の聖地であり、日本文化の大きな誇りだ」とした上で、「新たな事業を加えて収益を上げていかねばならない」と指摘した。

集客の手段として、日本庭園など緑の森づくりに約30億円、老朽化したスポーツ施設の改修に約45億円、宿泊施設の改修に約25億円と総額100億円規模を投資し、魅力ある施設をつくるという。県や市の支援も求めるという。比良社長は「2年後には、現在の年間約65万人の集客を100万人にしたい」と意欲を見せた。



開業を記念し、植樹をする比良社長（中央）や川勝知事（右端）ら



▲27日に本格開業する「つま恋リゾート彩の郷」の入り口

白が基調だった建物の外観は、赤みのあるベージュ色に塗り替え、日帰り温泉施設は工事を終えた。2棟あるホテル（計232室）の内装やじゅうたんの新装も済ませた。

内覧会には、川勝知事やスズキの鈴木修会長らが出席し、新たな門出を祝った。式典の一環として、比良社長や森喜朗元首相らによる記念植樹や碑の除幕が行われた。掛川市の松井三郎市長は「施設が活用され、世界に広がるよう掛川市としても協力する。2020年の東京五輪のキャンプ地として名乗りを上げており、実現することを期待したい」と話した。

「つま恋」はヤマハが昨年未だに一般営業を終了。3月末に正式に営業が譲渡され、HMIは再出発の衣替え工事を進めてきた。新たな彩の郷は、これまでの会員制を廃止して入園料を無料とする。アーチェリーやゴルフなど各施設の料金は据え置く。

2017. 4. 25

# HMI、3年で100億円投資

## 「つま恋」リゾート、再出発



敷地内の建物は自然と調和するベージュや緑の外装に更新していく方針だ

経営不振などを理由にヤマハが2016年末に一般営業を終了したりリゾート施設「ヤマハリゾートつま恋」（掛川市）が27日に再スタートを切る。全国でホテルや旅館を運営するホテルマネージメントインターナショナル（HMI）ホテルグループ、東京・中央が譲渡を受け「つま恋リゾート彩の郷（やまのくに）」として開業する。HMIの比良竜虎社長は24日会見を開き、再建に向け3年間で100億円を投じる方針を表明した。

つま恋の主な出来事	
1974年	つま恋オープン
75年	吉田拓郎とかぐや姫が野外コンサート。6万5000人を動員
86年	ポピュラーソングコンテスト（ポップコン）終了
2016年9月2日	ヤマハが営業終了を発表
12月25日	一般営業を終了
27日	ヤマハがHMIへの譲渡で基本合意したと発表
17年1月6日	HMI比良社長、松井三郎掛川市長と会談
2月28日	ヤマハとHMI、つま恋の不動産と商標の譲渡契約を締結
4月9日	第12回掛川・新茶マラソン開催
12日	「つま恋リゾート 彩の郷」としてプレオープン
27日	「つま恋リゾート 彩の郷」グランドオープン

## 単価抑え客数増 施設利用で収益

「地域の方や世界中の人が家族で楽しめるグリーンリゾートにする」。比良社長は会見で意気込みを語った。30億円をリゾート内の造園に、45億円を流水プールなどがある「ウォーターパーク」に、25億円を宿泊施設の改装に充てる計画だ。これまでは1000円だった入場料を無料にし、来場客数を現在の年間65万人から100万人に増やす目標。客室単価も平日は1泊2食付きで

比良社長は「つま恋」の再建に向けた100億円の投資を発表した



6600円からと平均で15%ほど下げ、平均稼働率70%の達成を掲げる。単価を抑えて来場客を増やし、温浴施設やプール、スポーツ場などを利用し

てもらって収益をあげる方針だ。

つま恋はヤマハの事業多角化戦略のなかで1974年に開業し、吉田拓郎やかぐや姫などのコンサートで「フォークの聖地」として名をはせた。2008年には40億円を売り上げたが、同年のリーマン・ショック以降経営が悪化。近年は年数億円の赤字が続いていた。

ヤマハにとっては音楽イベントや合宿などの開催も減り、本業の音楽事業との関連も薄れたため多額な改修費用をかけて

も効果が見込めず「その歴史的使命を終えた」と経営継続を断念した。

比良社長は海外ではリゾートの開発には数十年単位での回収を前提とした大規模な投資が一般的である例を引き合いに出し「日本の観光の魅力を引き出すには思い切った投資が必要」と、さらなる施設整備を進める考えも示した。

「従来のように音楽とスポーツだけで採算をとるのは難しい」（比良社長）。富士山などの観光資源やお茶やメロンとい

った特産品を施設内でアピール。静岡空港（牧之原市）などのインフラを生かし、海外の学校と連携して学生を迎えるなど海外に向けた発信も強化していく方針だ。

140万平方メートルの敷地を抱えるつま恋の年間固定資産税は1億1800万円。掛川市には観光施策での支援や税制面の優遇なども求めている。24日の除幕式に出席した松井三郎掛川市長は記者団の取材に「協力できるところはしていきたい」と話した。

2017. 4. 25

# 「つま恋リゾート」内覧会

## 27日に本格オープン

掛川

掛川市満水の総合レジャー施設「つま恋リゾート彩の郷」の内覧会が24日開かれた。経営難から昨年末に営業を終了したが、ホテルマネージメントインターナショナル（HMIホテルグループ、東京都中央区、比良竜虎社長）が経営を引き継ぎ、

施設をリニューアルした。27日に本格的に営業を開始する。

内覧会に先立って開かれた記者会見で比良社長は「今後3年間で100億円を投資し、約65万人だった年間来

場者数を100万人にしたい。低料金で高級サービスを目指す」などと語った。

施設面積は約140万平方メートル。ヤマハ（浜松市中区）が経営母体だった当時と同じ宿泊



施設や温泉、結婚式場、会議場、レストラン、乗馬やゴルフなどを楽しめる各種スポーツ施

設などがある。当面改装などをした上で、「旧つま恋」時代からとほぼ同じ形態で使用する。約500人の従業員のうち半数は従来の

継続雇用という。新規投資のうち約45億円はスポーツ関連施設に、約30億円を森林造成などに使う予定と

している。内覧会に続く開業式典には川勝平太知事や周辺自治体の首長、日印協会会長の森喜朗元首相ら政財界人らが招待されにぎわった。記



●碑文の除幕式に臨んだ関係者ら●宿泊施設の高層階から見た敷地内●掛川市の「つま恋リゾート彩の郷」で

念の植樹式や碑文の除幕式なども行われた。地元の掛川市は営業終了が発表された昨年9月から、「つま恋」の名称存続や施設を分割譲渡しないことなどを希望。HMI側がこうした要望に応える形で経営権を引き継いだ。【舟津進】

### 県内最高齢の110歳女性死去

県は24日、県内最高齢の杉山まつさん（110）＝藤枝市＝が23日、老衰のため亡くなったと発表した。今年3月に最高齢だった浜松市内の女性が110歳で亡くなり、杉山さんが県内最高齢になっていた。新たな最高齢は、伊東市の江藤フミさん（110）となる。

【井上知大】

2017. 4. 25

# つま恋 自然体験型に

## 社長会見 入園料は無料化

リゾート施設「つま恋」（掛川市）をヤマハから譲渡されたホテルマネージメントインターナショナル（HMI）の比良竜虎社長は24日記者会見し、今後3年間で100億円を投資し、自然を楽しむグリーンリゾートにする方針を明らかにした。1千円だった入園料は無料にし、65万人の年間入場者は2年後に100万人を目指すという。グランドオープンは27日で、名称は「つま恋リゾート

ト彩の郷」にする。四季の彩りがある自然に囲まれて過ごす「愛にあふれた郷」にするとの願いを込めた。100億円のうち30億円を造園に使ってサクラなどの木を新しく植え、140万平方メートルの敷地全体を整備する。45億円は今あるウォーターパークなどスポーツ施設の充実、25億円はホテルのリニューアルに使う。これまでのスポーツや音楽の機能は維持し、ヤマハ時代に音楽イベントを担っ

ていた木下晃氏はミュージックディレクターとして残る。ホテルの宿泊費はこれまでより15%ほど安くし、より多くの人に来てもらう方針だ。

比良社長はインド出身で、現在は日本国籍を取得したが、「インドの学生や企業人を呼び、日本とインドの交流拠点としたい。インバウンド客も誘致する。市には年1・2億円の固定資産税の減免をお願いしたい」と述べた。

この日は内覧会と披露パーティーも開かれ、日印協会会長の森喜朗元首相、川勝平太知事、鈴木修スズキ会長らが参加した。

（長谷川智）